

私は日本共産党を代表しまして、陳情第2号小中学校における少人数学級に向けた教育改革を求める意見書の提出を求める陳情に対し、賛成の立場で討論します。

この陳情にあるように、コロナ禍で子供たちは、長期休校、分散登校、夏休みの短縮等々、今までになかった事態に対応せざるを得ない生活を送っております。

教員たちも正規教員不足の中、感染対策に追われ、今まで以上に教員の多忙化に追い打ちをかけられているのが実態です。

そんな中での分散登校で、子どもの人数が減ることにより教室に落ち着きが生まれてきていたのは事実です。少ない人数で授業を行うことによりゆとりが生まれ、「授業が分かりやすくなった」「子供の様子がよく見える」とのことが証明されています。

政府も少人数学級の実現に向けて、令和7年度までに、小学校の1クラスの定員を40人以下から35人以下に引き下げる方向で最終調整に入り、17日の閣僚折衝での合意を目指すことにしているとの報道がありました。全国では500を超す自治体が意見書を採択し、全国知事会・校長会も少人数学級の実現を政府に要望しています。

野田市もこの流れに乗るべきです。

以上のことから、陳情第2号小中学校における少人数学級に向けた教育改革を求める意見書の提出を求める陳情に賛成といたします。